

# 調査から見える、新潟市の子どもの生活

～市内小・中学生へのアンケート調査結果から～

平成27年11月末に、市内小中学校の児童生徒及び中等教育学校の生徒を対象に、「新潟市生活・学習意識調査」を行いました。この調査から見てくる子どもたちの生活の様子をお知らせします。

5年前の調査結果と比べると次の各項目において肯定的な回答割合が3～7%増加しています。(H22⇒H27)

・「朝食では、黄・赤・緑の食品をバランスよく食べています」…小学生83%⇒86%、中学生74%⇒79%

・「家の手伝い（そうじ、食事の準備など）をしています」…小学生77%⇒82%、中学生70%⇒76%

・「体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしています」…小学生82%⇒88%、中学生72%⇒79%

また、今年度の調査で「すいみん時間はだいたいどれくらいですか（学校へ行く日）」の項目については、7時間以上の睡眠をとっている小学生が95%、中学生が68%でした。一方で、睡眠時間が6時間より少ない小学生が1%、中学生が6%。「朝食を毎日食べている」という項目では、ほとんど食べていない小学生が1%、中学生が2%います。このことから、一部の子どもたちが一日のスタートを上手く切れていない様子がうかがえます。

さて、子どもたちの生活を余暇の使い方から見てみると、右のグラフのような状況になっています。

まず、テレビやビデオ視聴の時間を見てみると、2時間以上費やしている子どもが最も多いのは小学6年の43%で、最も少ないのが中学3年の32%でした。

次に、電子ゲームに1時間以上費やしている子どもが最も多かったのは中学2年の41%、他の学年においても33%以上で、学年全体の3分の1を占めました。

さらに、携帯やパソコンで通話・メールに1時間以上費やしている子どもは、小学生が2～3%であるのに対し、中学生では約11～18%でした。テレビ・ビデオ視聴や電子ゲームの時間とは異なり、携帯電話等での通話やメールの時間は、年齢を追うごとに確実に増えていると言えます。

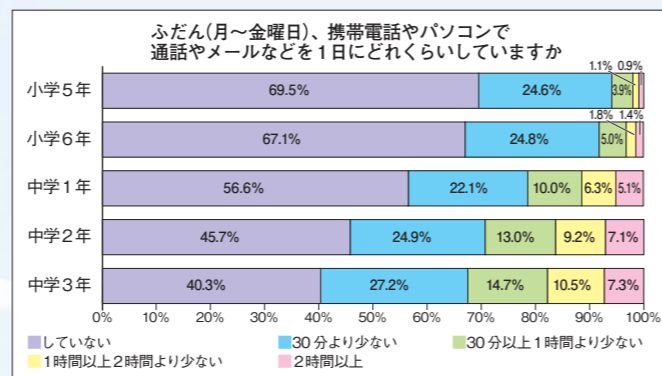
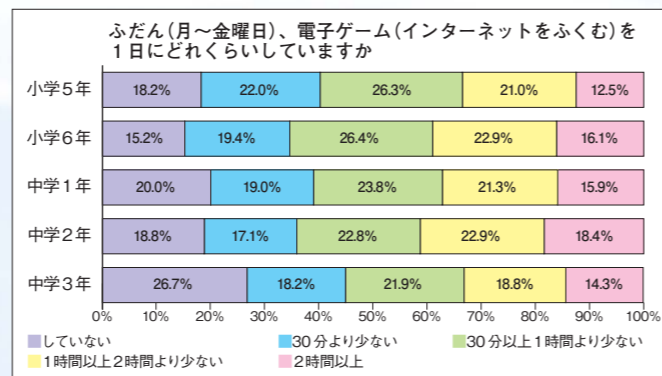
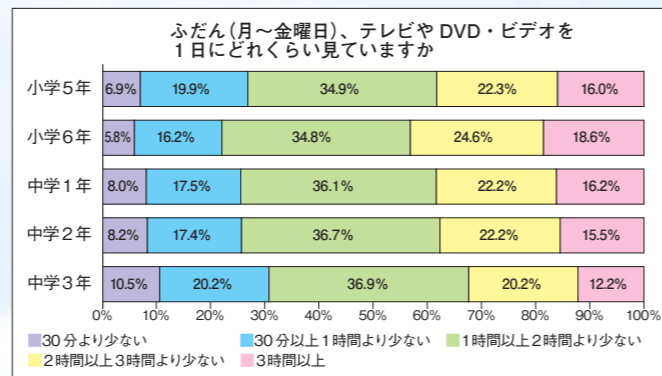
様々なメディアが普及している現在、子どもたちのメディア依存が社会問題となっており、その改善が求められています。

総合教育センターでは、メディアとの付き合い方を各学校において指導できるよう、「情報モラル研修」を教職員向けに行っています。

今後は、学校と家庭が連携をとりながら、子どもたちを見守っていくことが大切になります。



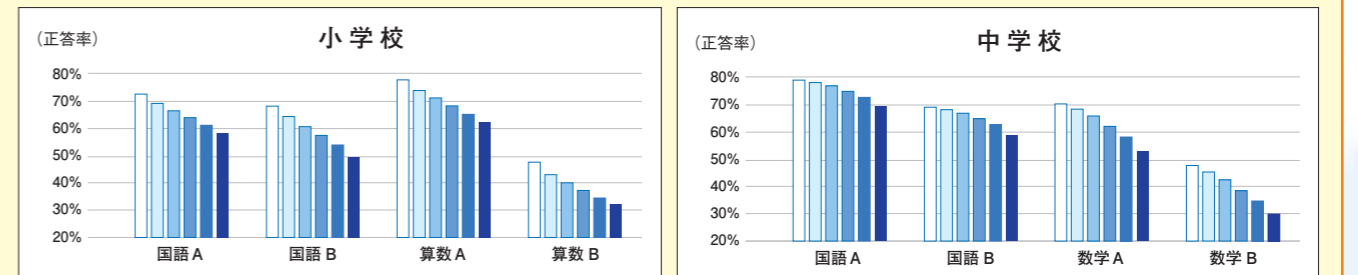
総合教育センターでの「情報モラル研修」



## 文部科学省のアンケート調査結果(平成27年度)より

文部科学省は、学力テストと併せて、児童生徒へのアンケート調査を行っています。「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(ゲームをする時間を除く)」の項目において、小学6年の58.2%が携帯電話やスマートフォンを使用していることが分かりました。中学3年においては、47.2%が1日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用し、その中の約10%は4時間以上費やしていました。

また、携帯電話やスマートフォンの使用時間と学力テストの平均正答率を比較すると、下のグラフのような状況になっています。グラフの縦軸は、平均正答率を示しています。横軸は、携帯電話等の使用時間を示しており、各教科とも左端から30分未満、30分以上1時間未満、1時間以上2時間未満、2時間以上3時間未満、3時間以上4時間未満、4時間以上となっています。小学校・中学校ともに、調査した全ての教科において、携帯電話やスマートフォンの使用時間が増えるほど正答率が下がる傾向が見られました。

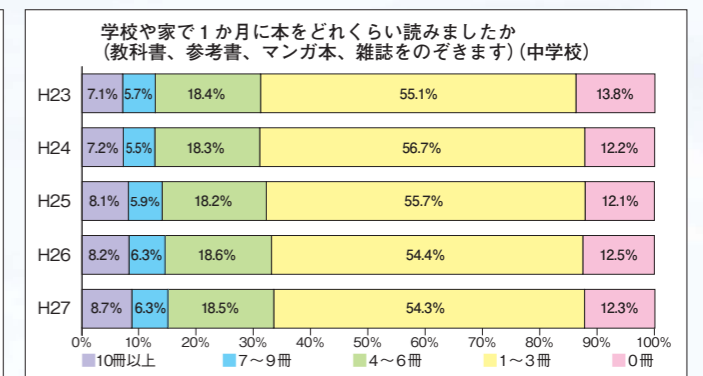
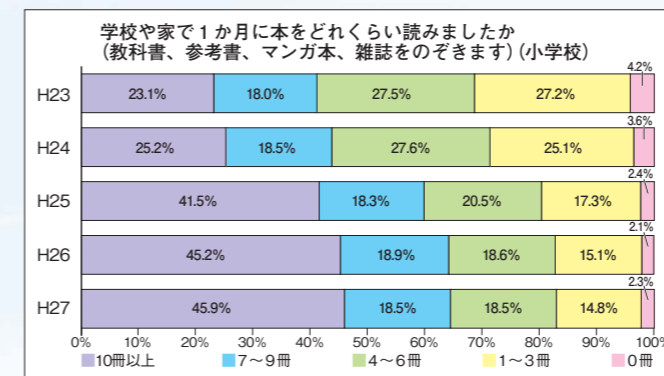
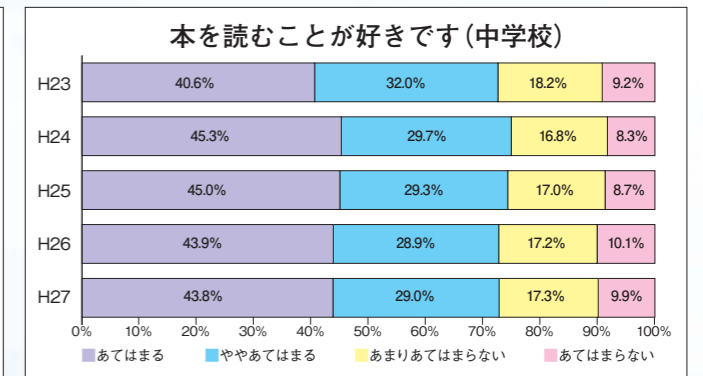
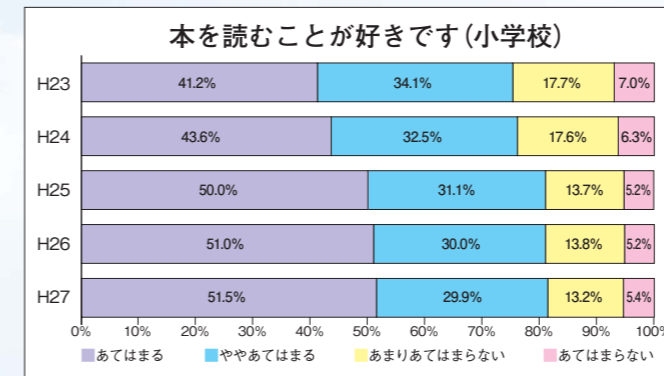


## ～読書量、5年間の比較～

子どもたちの読書に関して、平成23年度以降の5年間の比較してみました。

小中学校ともに読書量は増えています。小学校では、1か月に10冊以上と答えている児童が4年前と比べると、約2倍に増えています。「本を読むことが好き」と答えている児童も増加しています。

新潟市は、全小中学校の図書館に司書が配置され、学校や家庭での読書指導・読書活動が、これまで以上に推進されていることがうかがわれます。中学校においては、読書時間の確保が難しいのか伸び悩みが見られますが、全体的には高い水準で推移しています。



ご家庭での子どもたちの時間の使い方はいかがでしょうか。子どもたちが帰宅してから就寝までの時間の上手な使い方について、学校・家庭、そして地域も含め、周囲の大人が適切にアドバイスしてあげたいものです。